2024 (R6) シカ年度* 知床半島エゾシカ管理計画 実行計画 (案)



令和6(2024)年6月

目 次

2024(R6)シカ年度管理計画実行計画概要

1.	知床半島エゾシカ管理計画実行計画について	p.1
	2024(R6)シカ年度管理事業位置図	p.3
	2024(R6)シカ年度モニタリング調査位置図	p.4
2.	2024(R6)シカ年度実行計画(管理事業)一覧	p.5
3.	2024(R6)シカ年度実行計画(モニタリング調査)一覧	p.6
2024	(R6)シカ年度エゾシカ個体数調整・捕獲計画(案)	
4.	2024(R6)シカ年度エゾシカ捕獲事業計画(遺産地域)	p.7
5.	2024(R6)シカ年度エゾシカ捕獲事業計画(隣接地域)	p.21
2024	(R6)シカ年度植生モニタリング調査計画(案)	
6.	2024(R6)シカ年度植生モニタリング調査計画(環境省分)	p.24
7.	2024(R6)シカ年度植生モニタリング調査計画(林野庁分)	p.30

1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について

① 目的

今年度は、「第4期 知床半島エゾシカ管理計画」の計画期間【2022(令和4)年4月~2027(令和9)年3月】の3年目にあたる。同計画期間についても引き続き、各シカ年度毎に「知床半島エゾシカ管理計画実行計画」を作成し、エゾシカ管理施策を実施するものとする。本実行計画は、2024(令和6)年6月~2025(令和7)年5月を計画期間とする。

また、「知床半島エゾシカ管理計画」は、北海道が定める「北海道エゾシカ管理計画」(第二種特定 鳥獣管理計画)の地域計画に位置づけられていることから、本実行計画に基づく各種事業の実施にあ たっては、「北海道エゾシカ管理計画(第6期)」と十分な連携を図りながら進めるものとする。

② 2024 (R6) シカ年度実行計画期間

エゾシカ管理上の年度区切りとしては、出産期の6月開始、翌年5月終了とする。年度の表記としては、 $\lceil R6 \rangle$ シカ年度」とする。

③ 2024 (R6) シカ年度実行計画概要

<管理事業> (3,5ページ参照)

「第4期知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた3つの管理手法(防御的手法、生息環境改変、個体数調整)を、各地区の管理方針に基づいて優先順位の高いものから順に実施することとする。

i)「防御的手法 |

知床岬などに設置されている各種植生保護柵による防御を継続するとともに、幌別-岩尾別地区では植生保護柵や単木保護ネットの補修を実施し、シカ樹皮食い防止対策を引き続き進める。ウトロ市街地や羅臼中心市街地では、市街地を取り囲む侵入防止柵や電気柵の維持管理および被害対策を継続する。

ii)「生息環境改変」

幌別-岩尾別地区において、100 平方メートル運動の森・トラストによる、開拓跡地の森林 復元作業を引き続き進める。公共事業等における法面植栽等については、エゾシカの嗜好性の 低い在来種の利用を推進する。

iii)「個体数調整」

2024 (R6) シカ年度については、知床岬地区において主に対策手法の検討を、ルサー相泊地区及び幌別ー岩尾別地区において引き続き個体数調整をそれぞれ実施する。なお、捕獲手法については、それぞれの対策地における対策フェーズに応じて、効率的かつ低コストな対策手法を試行するなどの検討を進める。

さらに隣接地域においても囲いわなや銃等による個体数調整を実施する他、狩猟による捕獲 を推進する。なお、実施にあたっては、希少野生生物への影響に配慮する。

<モニタリング調査> (4,6ページ参照)

「知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた2つの評価項目(植生、エゾシカ生息密度)を中心に、必要なデータを収集することを目的とする。

i)「植生」

既存の植生保護柵内外の回復過程調査を規模を縮小して実施するほか、個体数調整実施地区における固定調査区のモニタリング、簡易的手法による指標種の回復量調査、広域的なシカ採食圧評価のための混合ベルト調査等を実施する。

ii)「エゾシカ生息密度」

主要越冬地での生息動向を、航空カウント調査を中心に、ロードセンサス (ライトセンサス や日中センサス) などの手法も用いて引き続き把握することに加え、自然死亡状況についても 情報収集する。

iii)「土壌浸食」

広域採食圧調査の実施時に、土壌浸食について、A0層と表土の流失の程度を5段階で把握する。

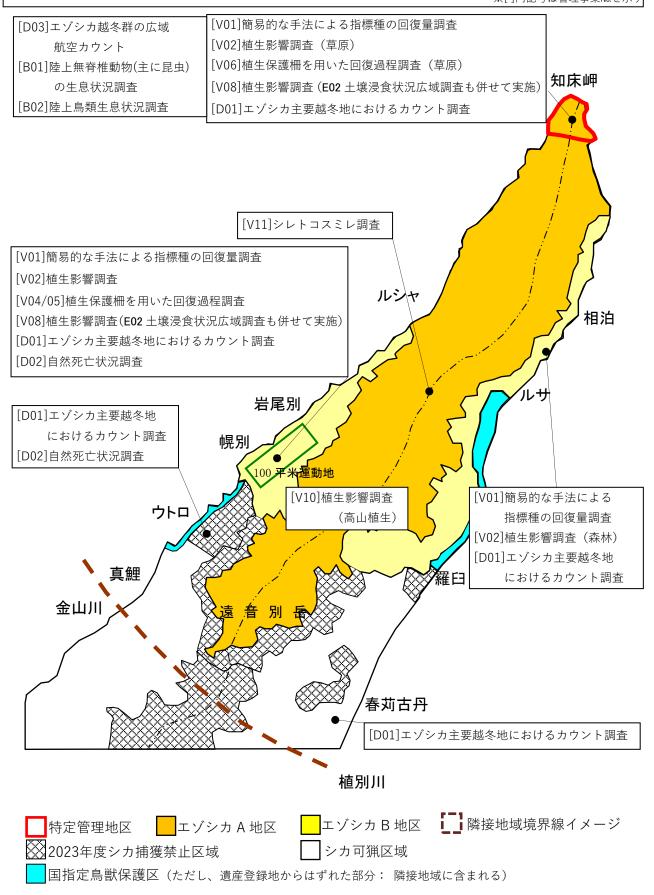
2024(R6)シカ年度管理事業位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す



2024(R6)シカ年度モニタリング調査位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す



2. 2024(R6)シカ年度実行計画(管理事業)一覧

地区区分	管理目標	No.	管理手法	実施主体	管理事業	地区・場所	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08
特定管理 地区	とにより、風衝地群落・山地性		防御的手法	環境省	草原植生保護柵の維持・補修	知床岬	0	0	0	0	0
	高茎草本群落・亜高山性高茎草本群落を含む生物多様性を保	特 2		林野庁	森林植生保護柵の維持・補修		0	0	0	0	0
	全・再生するとともに土壌浸食 を防止する。また、風衝地群落 で植被率を回復させる。	特 3	個体数調整	環境省	仕切柵の維持管理		0	0	0	0	0
	(数值目標) 発見密度:10 頭/k㎡以下	特4			捕獲(捕獲手法の検討を含む)		0	0	0	0	0
エゾシカ A地区	生態的過程により変動する動的 な生態系を保全するとともに、 希少植物種、又は遺産地域に特	A 1	防御的手法			高山帯		※必要に	応じて	検討実施	<u> </u>
	徴的な在来植物種と植物群落の 消失を回避することにより、本 地区の生物多様性を保全する。	A 2				ルシャ	:	※必要に	応じて	検討実施	<u>tī</u>
エゾシカ B地区	エゾシカの採食圧を軽減するこ とにより生物多様性の保全を図	В1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	ルサー相泊	0	0	0	0	0
	る。特に離農跡地等の人為植生 が越冬期の餌資源をエゾシカに	В2	個体数調整	環境省	捕獲(捕獲手法の検討を含む)		0	0	0	0	0
	供給している幌別-岩尾別地区では、離農跡地での森林復元を	В3	防御的手法	林野庁	森林植生保護柵の維持・補修	幌別-岩尾別	0	0	0	0	0
	促進する。また、地域との軋轢	В4		斜里町	既存侵入防止柵の巡視・補修	(100 平米運動地)	0	0	0	0	0
	の解消や軽減を図る。 (数値目標)	В5		斜里町	樹皮食い防止策の実施・補修	(100 平米運動地)	0	0	0	0	0
	発見密度:5頭/kml以下	В6	個体数調整	環境省	捕獲(捕獲手法の検討を含む)		0	0	0	0	0
		В7	生息環境の 改変	斜里町	開拓跡地の森林化	(100 平米運動地)	0	0	0	0	0
		В8		環境省	道路法面牧草面積の拡大抑制	国立公園内	0	0	0	0	0
隣接地域	エゾシカの採食圧を軽減するこ とにより、生物多様性を保全す	C1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	羅臼市街地	0	0	0	0	0
	るとともに、地域住民とエゾシ カの軋轢緩和を図る。	C 2		斜里町	市街地侵入防止柵の維持管理	ウトロ市街地	0	0	0	0	0
	(数値目標) 発見密度:5頭/km²以下	С3		林野庁	既存侵入防止柵の維持・補修	宇登呂イチイ遺伝資 源希少個体群保護林	0	0	0	0	0
		C 4	個体数調整	林野庁	捕獲(わな)	春苅古丹	0	0	0	0	0
		C 5		羅臼町	捕獲(銃器)	羅臼町内	0	0	0	0	0
		C 6		羅臼町	捕獲(わな)		0	0	\ominus	0	0
		C7		斜里町	捕獲(銃器)	ウトロ高原	0	0	0	0	0
		C8		斜里町	捕獲(銃器)	斜里町内	0	0	0	0	0
		C9		林野庁	捕獲(わな)	ウトロ~真鯉	0	0	0	0	0
		C 10		斜里町	捕獲(わな)		0	0	\ominus	0	0
		C11		北海道	狩猟による密度操作	全域	0	0	0	0	0

※水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

3. 2024(R6)シカ年度実行計画(モニタリング調査)一覧

								第	4 期計画期	期間			
No.	評価	項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ 又は調査方法	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	基本的な考え方など	
					知床岬	草原・森林	0	0	0	0	0		
7701			四块小	簡易的な手法による指標種の	ルサ-相泊	草原	0	0	0	0	0	毎年実施	
V01			環境省	回復量調査	幌別-岩尾別	草原・森林	0	0	0	0	0	ルシャは他調査(V03 等) と合わせて実施	
					ルシャ	草原・森林		0			0		
					知床岬			0			△林床	林床・稚樹・下枝は5年	
V02			tt my 广:		ルサ-相泊	**	△林床		0			に2回程度、毎木は1回	
V 02		詳細調査	林野庁	나코 나 티스웨지 크다 ·★·	幌別-岩尾別	森林		0			△林床	実施。変化の少ないルシ	
		調木		植生影響調査	ルシャ					0		ャ地区は5年間隔とする	
				- (森林植生、草原植生)	知床岬		0		0		0		
V03		(調整地区+	環境省		幌別	草原				0		知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度	
		地区			ルシャ			0			0	平间隔住及	
3704		凶+ ルシ	14 m7 r ²		知床岬			0				※エゾシカの影響からの 回復が進んだため、長期	
V04	植生	シャ)	林野庁	植生保護柵を用いた回復過程調査	幌別	森林		0				的な変化を追うために 5 年に1回程度実施	
V05	土		斜里町		幌別-岩尾別		0	0	0	0	0	100 平米運動地ほか	
V06			環境省		知床岬	草原	0		0		0	隔年程度。他調査(V03 等)と合わせて実施	
V07			環境省	エゾシカ採食量と回復量の 短期的な調査	知床岬 ルサ-相泊 幌別-岩尾別	草原						各調査区ともに終了	
V08		広域調:	林野庁	植生影響調査(森林植生)	全域の越冬地 (標高 300m 未満)、 標高 300~600m	森林	25 区	16区	11区	調整して毎年 10		基本的に5年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調 査区はモニタリング優先 度を下げて予備調査区と する"	
V09		以調査	環境省	植生影響調査(海岸植生)	斜里側 羅臼側	海岸				0	0	5 年間隔	
V10			環境省		全域		遠音別岳	知床連山	羅臼湖	知床岳		5 年間隔	
V11			環境省	植生影響調査(高山植生)		高山	0	0	0	0		毎年実施	
			環境省		知床岬	航空カウント	0	0	0	0	0		
D01	エゾ	詳細調査	斜里町	エゾシカ主要越冬地における カウント調査	幌別-岩尾別 ルサ-相泊 真鯉	ライトセンサス 日中カウント		0	0	0	0		
	ソシカ	調木			知床岬					J			
D02		围	知床財団	体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する			0	0	0	0		交通事故等死亡個体の回 収・記録 (ヒグマ対策の 一環として実施)	
D03	• /IEI	 	環境省	エゾシカ越冬群の広域航空カウント	全域	航空カウント	遺産地域内	遺産地域内	遺産地域内	0	遺産地域内		
D04	新 数 1	広域的調	環境省	越冬地エゾシカ実数調査	_							本調査は終了	
D05		査	環境省	エゾシカ季節移動調査	全域							本調査は終了	
E01	土壌浸食	詳細	環境省	土壌浸食状況調査	知床岬	(草原)						本調査は終了	
E02	浸食	広域	環境省 林野庁	土壌浸食状況広域調査	全域	森林	J	広域植生調査(V08)に併せて実施					
	生態系への影響 				知床岬				訪花				
F -				陸上無脊椎動物(主に昆虫)の	ルサ-相泊				訪花 地表性				
B01		詳細調	環境省	生息状況調査	幌別-岩尾別	草原・森林			訪花 地表性			5 年間隔	
		査			半島基部				訪花 地表性				
B02	響		環境省	陸上鳥類生息状況調査	知床岬 幌別-岩尾別	草原・森林			0			5 年間隔	
				<u> </u>	附加-石柱剂			<u> </u>	0			実施年に変更あり	

※水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

2024(R6)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画

地区別取組スケジュール

地区	内容	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月	4月	5月
							●季節移動	\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	T. VIII	流氷期			●季節移動
	(モニタリング調査)					く ライトセ	ンサス(秋期)	<u></u> 追迫(宕尾別	~五湖間)冬期	明闭鎖 11 月 ◆ 航空カウ	—	ライトセンサス(春期	钥)
知床岬	①猟銃を用いた捕獲										—	 手法検討結果も踏 具体な手法を選択 	まえて 判断
岬	手法検討	4	 		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	>							
相 泊 -	①くくりわな猟							餌誘引+捕獲1	 - - 0 回以上 		•		
惃	①大型仕切柵による 囲いわな式捕獲							餌誘引+捕獲3	 - 3 回以上 				
幌別 - 岩尾別	②待ち伏せ狙撃 忍び猟 ほか							餌誘引+捕獲	8 回以上				
別	③くくりわな							餌誘引+捕獲	 10 回以上 				
古春丹苅	くくりわな猟							餌誘引+捕獲		—			
〜真鯉	くくりわな猟								◆ 餌誘引+捕獲	—			

2024 (R6) シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画

捕獲取組一覧

事業 地 区 実施回数 捕獲目標 実施時期 捕獲手法 実施場所 わな基数 主体 「事業No.] 頭数 【遺産地域】 環境省 知床岬「特4] 2025年4月~5月 手法検討結果も踏まえ 知床岬先端部 延べ30日 メス成獣 て具体な手法を選択判 **※**1 以上 65 頭 (位置図 1) 断 **※**1 **※**1 アイドマリ川、ルサ川流域、昆布浜周辺ほか ルサ-相泊「B2] 10 回以上 12月~3月 くくりわな猟 17頭 (図中①) (位置図 2) 30 基以上 幌別-岩尾別「B6] 大型仕切柵による 岩尾別台地上 3回以上 43 頭 1月~3月 (位置図3) 囲いわな式捕獲 (図中①) 12月~3月 待ち伏せ式狙撃 岩尾別川河口付近ほか 8 回以上 **※**2 忍び猟 ほか (図中②) 10 回以上 12月~2月 くくりわな猟 幌別川から岩尾別川間 **※**2 15 基以上 【隣接地域】 林野庁 春苅古丹「C4] 1月上旬~2月中旬 春苅古丹川周辺 くくりわな猟 20 頭 誘引は12月開始 ウトロ~真鯉「C9] くくりわな猟 宇登呂地区 (ウトロ東、弁財崎) 25 頭 遠音別地区(オシンコシン周辺) 35 頭

^{※1} 捕獲目標頭数、実施時期並びに実施回数については、本 WG 委員の意見のほか、航空カウント調査結果等も踏まえて適宜見直し。

^{※2 12} 月は主に給餌による誘引、1月から捕獲を開始予定。

2024(R6)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画(案)(遺産地域)

1. 目的

エゾシカの個体数調整を実施することにより、知床国立公園及び知床世界自然遺産地域 (以下、遺産地域という。)におけるエゾシカの過増加による生態系への深刻な悪影響の緩 和を図る。

2. 実施地区及び実施期間

計画期間:令和6(2024)年6月~令和7(2025)年5月(※6~8月) 実施地区ごとの期間は下表のとおり。

実施地区	実施期間				
知床岬地区	令和7年4月~5月(※6~10月)				
ルサー相泊地区 (羅臼町)	令和6年12月~令和7年3月				
幌別-岩尾別地区(斜里町)	令和7年1月~3月				

^{※6}月以降に捕獲する個体については、翌シカ年度の実施状況として整理を行う。

3. 捕獲目標及びエゾシカ生息確認状況

実施地区ごとの捕獲目標頭数は下表のとおり。

実施地区	捕獲目標頭数※1
知床岬地区	メス成獣 65 頭以上 ※1
ルサー相泊地区	17 頭以上 ※2
	(内メス成獣 5 頭以上)
幌別-岩尾別地区	43 頭以上 ※2
	(内メス成獣 13 頭以上)

^{※1} 知床岬地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数のうち、メス成獣の半数以上 を捕獲目標頭数として設定。

※2 知床岬地区以外の2地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数(雌雄合計) から一般的な自然増加率(年当たり 21%)分を算出し、雌雄合計として捕獲目標頭数を設定。 この内メス成獣については、過去の捕獲実績より上記目標頭数の約3 割程度を目標頭数として設定。

なお、実施地区ごとの目標密度等の状況は下表のとおり。

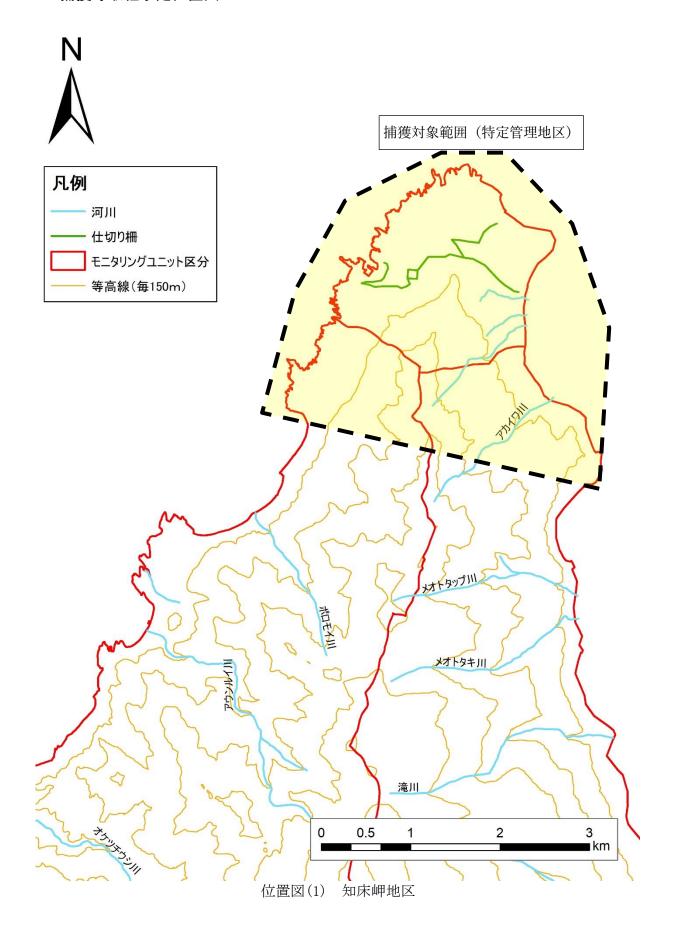
	第4期	発見頭数※1	発見密	度※1
実施地区	目標密度	2023 年度	2023 年度	第3期最終年
	口际征及			(2021年度)
知床岬地区	10 頭/k㎡	316 頭※2	93.50 頭/k㎡	78.64 頭/km²
		内メス成獣 129 頭		
ルサー相泊地区	5 頭/km²	78 頭	3.16 頭/k㎡	3.97 頭/k㎡
幌別-岩尾別地区	5 頭/km²	203 頭	6.98 頭/km²	10.28 頭/km²

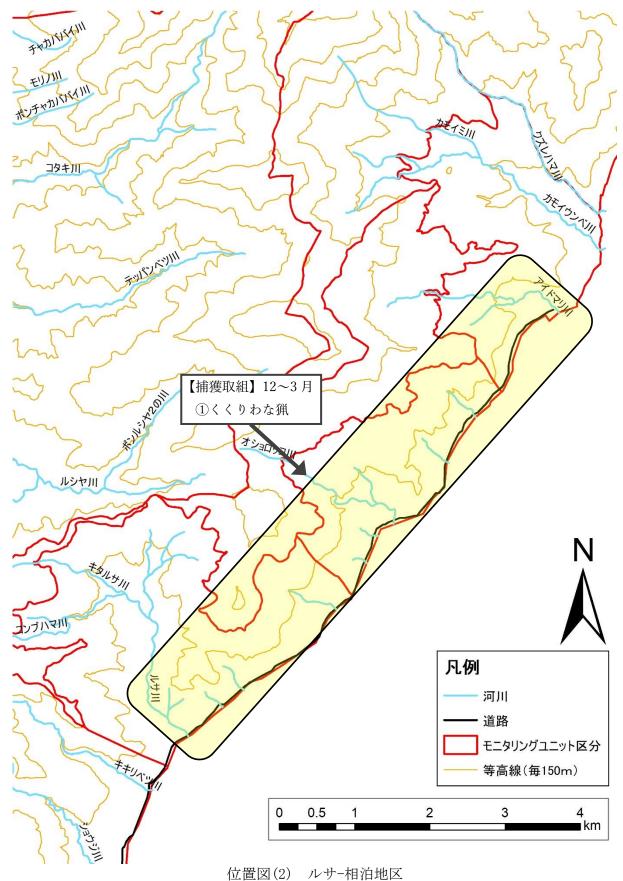
^{※1} 発見頭数及び密度については、過年度のエゾシカ航空カウント結果を基に算出・掲載。

[※]シカ年度は6月から翌年5月までの期間をいう。以下、文中「年度」の表記については シカ年度を指す。

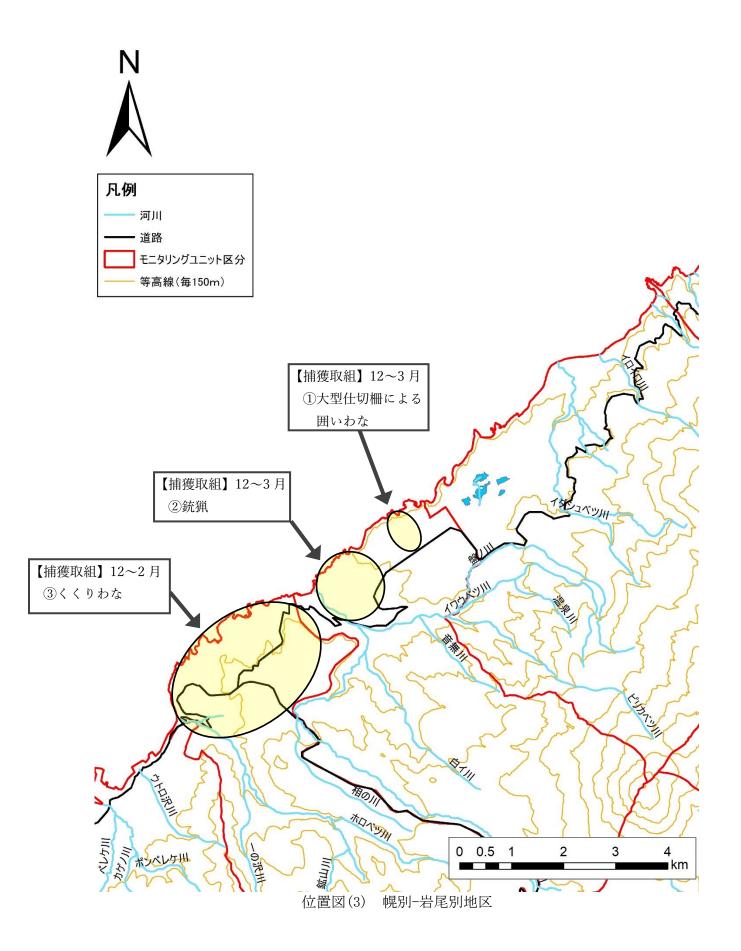
^{※2} 知床岬地区の発見頭数は別途実施した詳細(旋回撮影)調査結果を掲載。

4. 捕獲等取組予定位置図





型直図(2) /ビリー相相地区



知床岬地区におけるエゾシカ対策について

■植生保護のためのエゾシカ対策の新たな手法検討

- ・R6 年 5 月からの捕獲は行わず、これまでに WG で提示があった以下の手法について、有識者ヒアリングや現地調査、文献調査に基づいて具体的な 検討を行う。
- ・R5 年度に実施したモニタリング調査(植生調査、冬季航空カウント調査、自動撮影カメラ)は原則として R6 年度も継続実施する。

手法	ねらい	整理が必要な事項	左記整理のために 今年度実施する項目	備考	
今回新たに検討を行	すう手法				
(1)大型仕切柵によ	・大型仕切柵を設置し、シカを	①柵の諸元	・有識者ヒアリング①②③	・海外事例 (カナダ)、国	
る囲いわな式捕	囲い込むことで捕獲の効率化	設置位置(シカ利用状況、地形、	・現地調査(+有識者)①②③	内事例(岩尾別)あり	
獲	を図る	植生を踏まえて判断)、構造(簡	・文献調査①②③	・検討後に別途、測量設計	
	・個人の狩猟技術によらず捕獲	易/常設)、外周距離や高さ等の	・給餌による誘引試行②	や工事業務の発注とそ	
	が可能	施設規模	・植生モニタリング(定点)①②	れに要する時間が必要	
		②餌による誘引	・植生調査(定点以外)①②		
		餌の種類、給餌の頻度、時期	・自動撮影カメラ①②		
		③捕獲個体の搬出方法	・航空カウント調査(冬季)①		
			※実施結果を踏まえ、各管理手法の効		
			果を整理した上で具体的な実施計画		
			を策定し、予算等の状況に応じて R7		
			以降の実施を検討する。以下同		
(2)囮シカの利用		①生体捕獲の方法	・有識者ヒアリング①②③	・海外事例 (ニュージーラ	
	群れの位置や行動を把握	②必要捕獲数の割り出し	・現地調査(+有識者)①	ンド)、国内事例(釧路	
	・給餌により順化させ、他の個		・文献調査①②③	湿原ほか)あり	
	体を誘引させて捕獲の効率化	順化方法、必要期間	・生体捕獲の試行①		
	を図る		・自動撮影カメラ①		

手法	ねらい	整理が必要な事項	左記整理のために 今年度実施する項目	備考
(3)港湾施設以外からの上陸捕獲	・船を用いて港湾以外から上陸 し、早春期に海岸段丘斜面に 集まる群れを捕獲する	①上陸・捕獲に係る方法 上陸場所、捕獲適地、具体な実施 可能時期 ②捕獲個体の搬出方法	 ・有識者ヒアリング①② ・現地調査(+有識者)①② ・文献調査①② ・ヒアリング調査① ・自動撮影カメラ① 	・船からの直接射撃は射撃 精度、死体回収、継続性 からも課題は多い
(4)自動撮影カメラ を用いたエゾシ カ動態等の把握	法の検討評価に資する	①モニタリングの目的 知床半島におけるシカの移動や 密度推定(相対的な密度比較を含む)の解明 ②モニタリングの手法	・目的に応じた設置場所、設置期間、 機器設定条件及びデータ解析方法 などモニタリングプランの試行検 討	・飯島委員から助言あり。
すでに検討・実施を (5)シカ笛を用いた 捕獲 (コール猟)		・これまで効果が認められていないが、効果の見込める方法があるかどうか	・シカ笛を用いた誘引試行	
(6)秋期の捕獲	・捕獲期間を延長することで捕獲実績の上積みを図る	・現実的かつ十分なヒグマ対策がとれるかどうか	・ヒグマ対策改善策の試行・シカ及びクマとの遭遇状況調査	・令和5年度業務において 検討済み。ヒグマ対策を 行った上で実施は可能 との結論
(7)冬期の捕獲 (巻き 狩り猟)	・越冬期、エゾシカが集中する 時期に捕獲を行うことで捕獲 実績の上積みを図る	・現行で実行体制(人数、技術) の確立や捕獲見込み、予算の確 保が可能か	・左項の確認	・過去に実績あるも、その後、学習による捕獲低下等の課題残る
(8)日没時銃猟	・捕獲可能時間を延長することで 捕獲実績の上積みを図る	・現実的かつ十分なヒグマ対策が 夜間にとれるかどうか	・ヒグマ対策改善策の試行	・同上

■手法検討の進捗状況(速報版)

(1) 自動撮影カメラによる現地モニタリング調査の実施

本調査では、個体密度推定のための自動撮影カメラを計 17 台、個体群動態を把握するためのカメラを計 10 台設置する。カメラの設置位置については、図 1 \sim 図 2 に示した。

現在、個体密度推定のカメラ 12 台、個体群動態のカメラ 10 台を現地に設置しており、残りの密度推定用のカメラは国有林の使用承諾が下り次第、設置作業を行う予定。



図 1. 知床岬調査エリア全体図 (ISC17 台、MNC10 台)

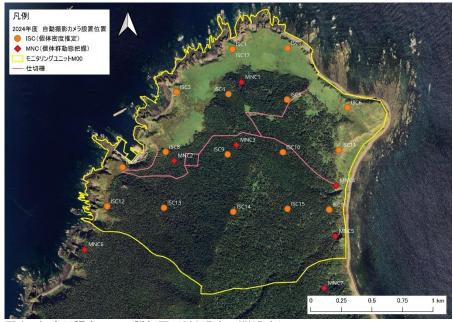


図2. 知床岬調査エリア詳細図 (ISC17台、MNC5台)

個体密度推定

個体密度推定は、タイムラプス撮影を用いた手法 Instantaneous sampling (IS) で実施する。設置位置は基本的に各 500m メッシュの重心点に配置し、計 17 台のカメラを使用する(図 3)。解析に使用するデータは、①撮影枚数、②撮影個体数、③撮影範囲面積、④稼働日数である。なお、1 か月分のデータがあればその時期の個体密度推定は可能とのことだが、具体的な解析時期については未定。現在はデータ取得を優先することとし、設置作業を進めている。自動撮影カメラの設定方法については表 1 に示した。

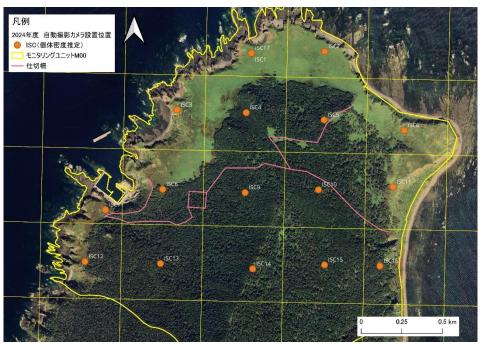


図3. IS用のカメラ設置位置(500mメッシュの重心点に配置)

表 1. IS 手法における自動撮影カメラの設定方法

及1. 10] AIC 8517 6日到取款200 7 0000 C20 A					
自動撮影カメラ機種	ハイクカム SP2				
モード	静止画				
解像度	500 万画素				
撮影枚数	1枚				
撮影時間(動画)	_				
センサー感度	0FF				
インターバル (ディレイ)	_				
タイムスタンプ	ON				
フラッシュ	高				
音声	0FF				
タイムラプス	ON 5分(16台)、15分(1台)				
上書き設定	0FF				

相対密度比較及び季節的な移動の把握

相対密度比較及び季節的な移動の把握を行うため、自動撮影カメラを計 10 台設置する (図 4)。 カメラは、各 5km メッシュに 1 台以上を設置した。解析には、①撮影枚数②カメラの稼働日数③ 撮影頭数を使用する。設置期間は通年を検討しており、来年度以降も継続して実施することで、経年的な変化を把握することが可能と考える。自動撮影カメラの設定方法については表 2 に示した。



図 4. モーション撮影用自動撮影カメラ 10 台の設置候補位置

表 2. 個体群動態を把握するための自動撮影カメラの設定方法

自動撮影カメラ機種	ハイクカム SP2
モード	静止画
解像度	500 万画素
撮影枚数	2枚
撮影時間(動画)	_
センサー感度	中
インターバル (ディレイ)	5分
フラッシュ	高
音声	0FF
タイムラプス	ON(8 時間)→カメラ稼働時間の確認用
上書き設定	0FF

(2) 大型仕切柵による囲いわな式捕獲

エゾシカを効率的に捕獲するための囲いわなの設置等について現在検討を進めている。また、 エゾシカ誘引餌(ヘイキューブ)を用いて、こけし岩および一の沢周辺部において餌の誘引効果 を検証するために給餌試験を実施している。



図 5. 給餌試験実施地点

(3)港湾施設以外からの上陸

捕獲対象範囲における作業を実施する際に、文吉湾以外からの上陸場所について検討を行っている。現在上陸可能であることが確認できている場所は斜里側のアウンモイおよび羅臼側の赤岩である。また、捕獲個体の回収運搬についても検討を行う予定である。

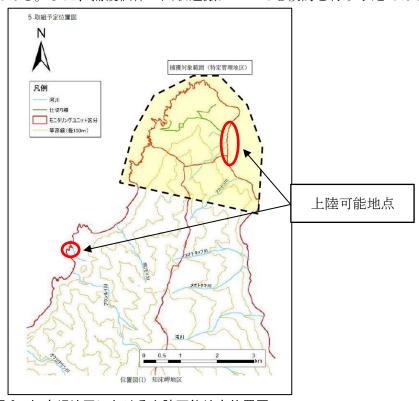


図 6. 知床岬地区における上陸可能地点位置図

(4) その他の対策検討について

より効果的かつ効率的な対策に向けた従来手法の改善等については順次検討を実施予定。なお、赤外線機能付きのドローンを飛行させ、生息状況調査も追加的に実施している。

(5)4月における知床岬の状況報告(知床財団独自事業)

4月15日に知床財団職員が知床岬におけるシカの出現状況を把握するため、昨年度に捕獲対策用に設置した自動撮影カメラのメンテナンス、ドローンによる生息状況調査、誘引餌の給餌試験を日帰りで実施した。

自動撮影カメラ計 15 台をメンテンナンスしたところ、電池残量は草原部(モーション+タイムラプス 15 分)においては容量 1 本、森林内(モーション)においては容量 3 本の状態であった。 SD カードのデータ回収を行い、現在集計を進めているところである。

ドローンによる生息状況調査では、計 3 回のフライトを行い、うち 1 回でオス 3 頭のシカを 8 時 30 分に確認した。確認されたシカは灯台より東の羅臼側草原であった。また、作業員が移動中に目視したシカは 8 回であり、30m まで接近しても逃走しないオスジカが確認された。シカの遭遇状況については表 3 および図 7 に示す。

誘引餌の給餌試験では、ヘイキューブ 30 kgを文吉湾付近の草原部に散布し、自動撮影カメラを設置して、餌の採食状況を確認した。撮影したデータについては、現在データ整理を進めているが、誘引餌を採食している状況を確認した(写真 1)。

衣 3.	4/10 加入	岬地区に	ひこのシング	山坑八兀	
No.	時刻	頭数	構成	距離(m)	目視方法
1	6:20	4	メス中心	200	船上
2	7:58	1	不明	50	徒歩
3	8:00	4	メス中心	100	徒歩
4	8:31	3	オス群れ	_	ドローン
5	8:41	1	不明	100	 徒步
6	8:49	2	オス群れ	70	 徒步
7	9:18	1	オス	30	 徒步
8	10:12	2	不明	50	 徒步
9	10:39	1	オス	70	

表 3. 4/15 知床岬地区におけるシカ出現状況



図 7. エゾシカ確認地点位置図





(案)

2024 (R6) シカ年度 エゾシカ捕獲事業計画 (隣接地域)

1)目的

エゾシカの季節的な移動や分散を考慮すると、遺産地域に影響を与えうるエゾシカ個体群の範囲は知床半島基部にまで及ぶ。2024 (R6)シカ年度エゾシカ捕獲事業では、第4期知床半島エゾシカ管理計画に基づき、エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全するとともに、地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。

2)経緯と方針

<経緯>

- ・北海道森林管理局では、2010 (H22) 年度から春苅古丹地区で捕獲事業を開始。2013 (H25) 年度から遺産地域に隣接する宇登呂地区での捕獲事業を開始。2014 (H26) 年度から遠音別地区、真鯉地区において捕獲事業を開始。
- ・わなによる捕獲は、囲いわな、箱わなに加え、2018 (H30) 年度からくくりわなによる捕獲を実施。
- ・囲いわなでの捕獲数が年々減少した理由として、警戒心の増加、局所的な生息数の 減少が原因として考えられる。
- ・地形条件等により囲いわな設置が難しい箇所においては、銃を用いた捕獲を H26 年度から実施。なお、捕獲可能な場所が限られることもあり、捕獲頭数は年々減少したため、R2 年度以降は銃猟を休止するとともに、くくりわな主体に捕獲を実施。

<方針>

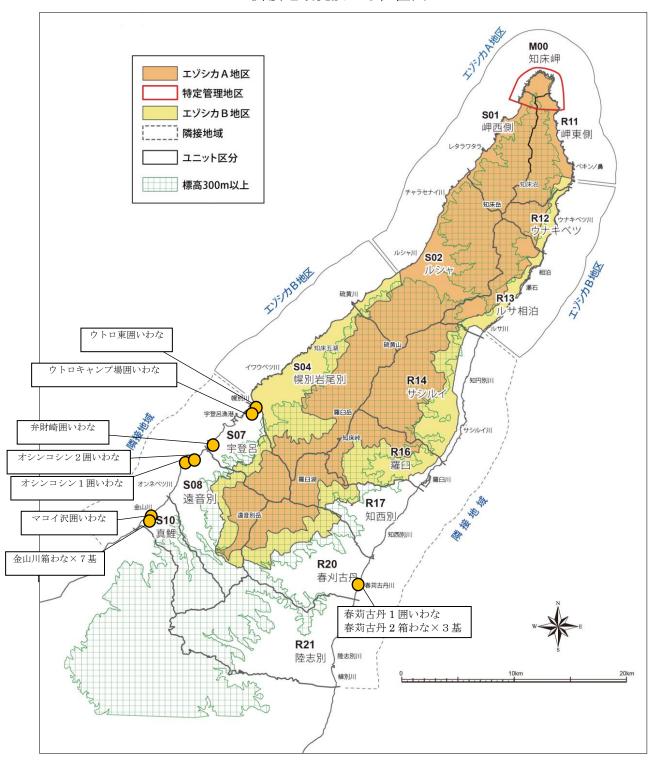
- ・くくりわなにおいて安定して頭数が捕獲されていることから、2024 (R6) シカ年度 の捕獲方法はくくりわなとする。
- ・一般狩猟が可能な区域は基本的に除外し、鳥獣保護区等で狩猟による捕獲が見込めない区域を事業対象とする。具体的には、ウトロ東からオシンコシンにかけての地区、及び春苅古丹地区において、くくりわなによる捕獲を行う。
- ・捕獲目標は過去の捕獲頭数及び航空カウントによる密度、地域からの意見等を考慮し設定。
- 事業にあたっては希少野生生物に配慮するため、有識者より助言を受けて実施する。

3)捕獲事業内容案

<全体>目標80頭(うち斜里町側60頭、羅臼町側20頭)

- ・くくりわな(1月上旬~2月中旬に捕獲を実施)
- **3-1) 宇登呂地区** 捕獲目標頭数:25 頭
- ・くくりわな (ウトロ東、弁財崎)
- **3-2) 遠音別地区** 捕獲目標頭数:35 頭
- ・くくりわな (オシンコシン周辺)
- **3-3) 春苅古丹地区** 捕獲目標頭数:20頭
 - (12月給餌・誘引開始、1月上旬~2月中旬捕獲実施)
- ・くくりわな(春苅古丹林道周辺)

隣接地域既設わな位置図



6. 2024(R06)シカ年度 植生モニタリング調査計画(環境省)

これまでの実施成果とモニタリング計画を基にした 2024 年度の計画案を下表にまとめた。 このほか、今年度は<u>植生回復目標及び指標検討に係る既存文献の調査等による情報収集並びに</u> データ整理・取りまとめを予定している。

表 第 4 期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画 ●印が今回、環境省事業として行う植生モニタリング調査対象。

			O - -	75 71	、		/					
評	項	モニタリング	実施			植生			期計画			
価	目	項目	主体	No.	調査地区	タイプ	2022	2023	2024	2025	2026	基本的な考え方等
іш	н	ХН	rr-			/ 1/	(R04)	(R05)	(R06)	(R07)	(R08)	
		毎日始れエ 壮に			知床岬	森林·草原	0	0	•	0	0	
		簡易的な手法に よる指標種の回	環境省	V01	幌別-岩尾別	森林・草原	0	0	•	0	0	毎年実施
		まる拍標性の回 復量調査	垛児目	101	ルサー相泊	草原	0	0	•	0	0	
		及里 侧且			ルシャ	森林·草原		0			0	他調査と並行実施
					知床岬			0			Δ	毎木は 5 年間隔、
			井熙 亡	VOO	幌別-岩尾別	木壮		0			Δ	林床・稚樹・下枝は
			林野庁	V02	ルサ-相泊	森林	Δ		0			隔年で実施
	詳	植生影響調査			ルシャ					0		5 年間隔で実施
	細				知床岬		0		•		0	知床岬は隔年、幌
	調		環境省	V03	幌別	草原				0		別は 5 年間隔で実
	查				ルシャ			0			0	施
			壮熙庄	VO4	知床岬	本社		0				- 年期原で宝歩
		植生保護柵を用いた回復過程調	林野庁	V04	幌別	森林	*	0				5年間隔で実施
植		いた回復過程調 査	斜里町	V05	幌別-岩尾別	森林	0	0	0	0	0	100m ² 運動地ほか
生		TEL.	環境省	V06	知床岬	草原	0		•		0	隔年程度で実施
	Ī	エゾシカ採食量			知床岬							
		と回復量の短期	環境省	V07	幌別-岩尾別	草原						終了
		的な調査			ルサー相泊							
					標高 300 未							5年間隔で実施
		植生影響調査	₩ E	V08	満(越冬地)、	本林	0					調査計画を全体に
		(森林植生)	林野庁	800	標高 300~		25 区					調整して毎年 10~
	広				600m							20 区を調査
	域	植生影響調査	環境省	V09	斜里側	海岸				0		5年間隔で実施
	調	(海岸植生)	垛児目	109	羅臼側	(呼)干					0	0 午间網で天旭
	査						0	0	•	0		
		植生影響調査	環境省	V10	全域	高山	遠音	知床	羅臼	知床		5年間隔で実施
		(高山植生)					別岳	連山	湖	岳		
			環境省	V11	硫黄山周辺	高山	0	0	0	0	0	毎年実施
土	詳	土壤侵食状況調	環境省	E01	知床岬	草原						 終了
壌	細	查	タベクゼ・日	P01	VHNISHL	子//\						/PS - J
侵	広	土壤侵食状況広	環境省	E02	全域	森林						広域植生調査 V08
食	域	域調査	林野庁	E02	土場	ATAIN						に合わせて実施
生		Blo I boat in sec.			知床岬	森林·草原			•			
態	詳	陸上無脊椎動物	ame participa		幌別-岩尾別				•			
系	細	(主に昆虫類)の	環境省	B01	ルサ-相泊				•			5年間隔で実施
^	調	生息状況調査			半島基部				_			
の	查	压 [白 宏 仏 白 J h			知床岬							
影		陸上鳥類生息状	環境省	B02								5年間隔で実施
響		況調査 a生促業柵を用いた			幌別-岩尾別							

[※]V04 植生保護柵を用いた回復過程調査のうち、岩尾別地区の森林固定区はモニタリング項計画から外されているが、現況確認のため 2022 年度に調査を実施した。

1. 詳細調査: エゾシカ個体数調整地区における指標開発・事業評価

1.1 簡易的な手法による指標種の回復量調査 (VO1) : 知床岬、幌別、ルサの3地区

1.2 植生影響調査(草原植生)(VO3):知床岬地区

2024年度は、知床岬地区、幌別地区、ルサ地区の各地区において、夏季(8月頃)にこれまでと同じ手法で植生調査を実施し、経年変化の傾向を把握する。また、知床岬地区については、初夏季(6月下旬)にも開花期を持つ種を対象とした調査を実施する。

■知床岬地区

【長距離ライン概要】



■幌別地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_HL1	500	自然センター向かい
森林	F_HL2	500	森林固定区向かい
森林	F_HL3	500	岩尾別温泉途中
草原	G_HL1	920	フレペ遊歩道一周

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_H1	100	対照
森林	F_H1c	100	囲い
森林	F_H2	100	対照
草原	G_H1	50	対照



■ルサ地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
草原	G_RL1	370	囲いわなに向かう作業道沿いの山側



1.3 植生保護柵を用いた回復過程調査(草原植生)(VO6):知床岬地区

2024年度は、下図の調査区において、夏季(8月頃)にこれまでと同じ手法で植生調査を実施し、防鹿柵による植生回復について評価を行う。

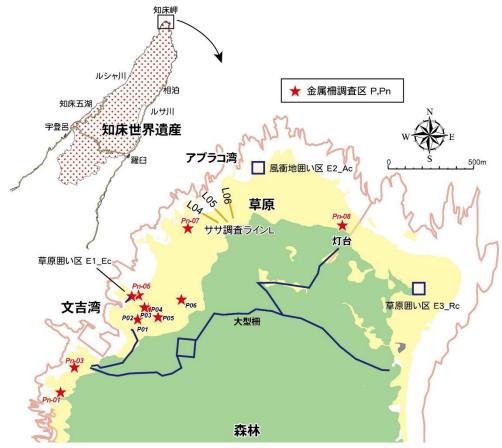


図1 岬における防鹿柵を用いた植生回復試験地の位置

2. 広域調査: 半島全体における植生の状況とエゾシカ影響の把握

2.1 植生影響調査(高山植生)(V10):羅臼湖周辺地域

知床半島の植物相を特徴づけるものの一つである高山植生を大きく4つの地区に分け、各地区5年間隔でモニタリングしている。2024年度は**羅臼湖周辺地域**における調査を実施し(2010年、2013年、2019年に続く調査)、経年変化の傾向を把握する。

地点	ライン長 (m)	方形区数 (合計)	1m × 1m	2m × 1m	5m × 1m
羅臼湖	162	8	8	0	0
五の沼南岸	17	5	4	1	0
アヤメが原	21	3	2	1	0
三の沼	12	3	2	1	0
一の沼	77	16	14	1	1
計(個)	289	35	30	4	1
合計面積(m ²)		43	30	8	5

表 1 羅臼湖周辺の調査ライントランセクトと方形区の設置状況

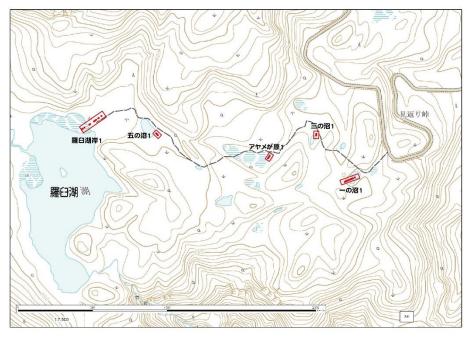


図2 羅臼湖周辺の調査区の位置図

2.2 陸上無脊椎動物(主に昆虫類)の生息状況調査 (B01)

高密度状態にあるエゾシカにより遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないことを把握し評価するため、昆虫類並びに鳥類を対象にインベントリ調査を行う。

①地表性昆虫の生息状況調査

調査手法:ピットフォールトラップ法による調査。捕獲回収した個体については、種名、

個体数などを記録した後、適切に処理。

調查時期:夏期(8月頃)

表 2. 対象調査区

町域	地名	対象調査区 (植生調査区呼称)	植生環境	エゾシカ 利用状況
斜里町域	幌別	3 区 (S06-1, 3、E-Ho)	森林	⋼
		1区(E-Hc(囲い区柵内))	森林	なし
	真鯉	2 区(S10-1~2)	森林	低
羅臼町域	ルサ	3 ⊠ (R12-2, R13-1~2)	森林	高
	陸志別	3 区 (R21-1~3)	森林	低



図3. 対象調査区位置概略図

②訪花性昆虫の生息状況調査

調査手法:スポットセンサス法による調査。原則、捕獲採集は行わず目視確認により虫種、

訪花対象植物種などを記録。

調査時期:夏期(8月頃を予定。開花時期も踏まえて判断)

表3. 対象調査地

町域	地名	対象調査地 (標高目安)	植生環境	エゾシカ 利用状況
知床岬地区	_	16 地点(80m)	草原	高/なし
邓严坦区		6 地点(25~40m)	森林	高
斜里町域	フレペの滝遊歩道	3 地点(110m)	草原	高
	オロンコ岩遊歩道	5 地点(50m)	草原	なし
	幌別森づくりの小道	2 地点(190m)	森林	高
	金山林道	4 地点(160m)	森林	低
羅臼町域	道道沿線(ルサ、相	4 地点(7~10m)	草原	高
	泊) 道道沿線(瀬石)	2 地点(10m)	草原	低
	春苅古丹林道	2 地点(30m)	森林	低

2.3 陸生鳥類生息状況調査 (BO2)

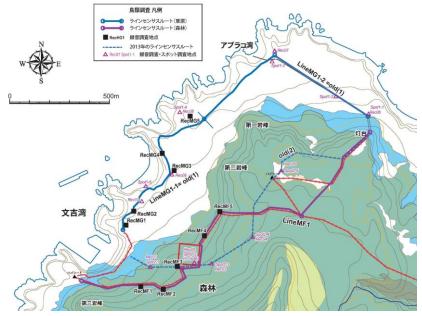
調査手法:ラインセンサス法による調査。調査ルート上の片側 25m、幅計 50m の帯状区内で

確認した鳥種、個体数などを記録。

調査時期:繁殖期(6月下旬)

表4. 対象調査ルート

地区名	ルート名	区間	距離目安	植生環境
	MG1-1	文吉湾~植生変化点	724m	草原
	MG1-2	植生変化点~アブラコ湾	605m	草原
知床岬地区	MG1-3	アブラコ湾〜灯台下	504m	草原
和水岬地区	MF1-1	文吉湾~1ha 柵	581m	森林
	MF1-2	1ha 柵~仕切柵分岐	791m	森林
	MF1-3	仕切柵分岐~灯台	496m	森林
幌別地区	HG1	フレペの滝散策路	925m	草原
	HF1	歩道入口~知床自然センター	1,627m	森林
	HF2	前	1, 141m	森林
		町道沿い		
岩尾別地区	HF3-1	道道直線区間(至知床五湖)	1,504m	森林
	HF3-2	道道分岐~知床五湖	375m	森林



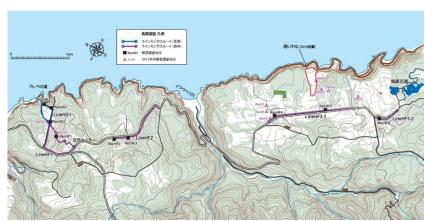


図4. 対象調査ルート位置概略図

7. 2024 (R06) シカ年度 植生モニタリング調査計画 (林野庁分)

これまでの実施成果とモニタリング計画をもとにした2024年度の計画のうち林野庁実施分について示した。第 4 期エゾシカ管理計画におけるモニタリング調査の構成を踏まえ、表-1 に調査のスケジュール一覧を示した。

表-1.第4期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画 (植生関連)

	評	:価	実施	モニタリン		植生		第4	期計画	期間		
No.	項		主体	グ 項目	調査地	タイプ	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	基本的な考え方など
				簡易的な手	知床岬	草原/	0	0	0	0	0	
V01			環境省	法による指	ルサ-相泊	草原	0	0	0	0	0	毎年実施 ルシャは他調査(V03 等)
001			垛况目	標種の回復 量調査	幌別-岩尾別	草原/	0	0	0	0	0	と合わせて実施
				里 侧且	ルシャ	草原/		0			0	
					知床岬			0			\triangle	林床・稚樹・下枝は5年
V02			<mark>林野庁</mark>		ルサ-相泊	森林	Δ		0			に 2 回程度(△)、毎木は 1 回実施。変化の少ない
V 02		詳細	111111	植生影響調査	幌別-岩尾別	本本4个		0			\triangle	ルシャ地区は5年間隔と
		調		_ (森林植	ルシャ					0		する
		查(生、草原植生)	知床岬		0		0		0	
V03		(調整地	環境省		幌別	草原				0		知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度
		地区			ルシャ			0			0	
V04	植 生	+ルシ	林野庁		知床岬			0				※エゾシカの影響からの 回復が進んだため、長期
		17)	11-210	植生保護柵	幌別	森林		0				的な変化を追うために 5 年に1回程度実施
V05			斜里町	を用いた回 復過程調査	幌別-岩尾別		0	0	0	0	0	100 平米運動地ほか
V06			環境省		知床岬	草原	0		0		0	隔年程度。他調査(V03 等)と合わせて実施
				エゾシカ採食	知床岬							
V07			環境省	量と回復量の	ルサ-相泊	草原						各調査区ともに終了
				短期的な調査	幌別-岩尾別							
V08		広域調	<mark>林野庁</mark>	植生影響調 査 (森林植	全域の越冬 地 (標 高 300m未満)、	森林	調査記		≧体に調 20 区を		毎年	基本的に5年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調 査区はモニタリング優先
		査		生)	標高 300~ 600m		25 区	16区	11区			度を下げて予備調査区と する

※各調査区では【E02 土壌浸食状況広域調査】についても合わせて実施する。

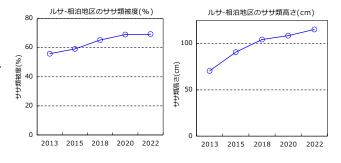
1. 詳細調査:個体数調整地区における指標開発・事業評価

個体数調整地区の 3 地区においては、個体数調査の効果を検証するためのモニタリング を実施してきている。

1-1.植生影響調査(森林植生)(V02) 林野庁事業

森林調査は稚樹・下枝・林床植生については2年間隔のモニタリングを基本としており、2024年度は<u>ルサー相泊地</u>区5区で調査を実施する。

本地区では前回までササ類の回復が 見られていたため、その傾向を検証す る。



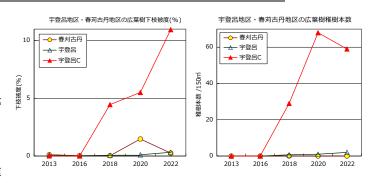
1-2.植生保護柵を用いた回復過程調査(森林植生)(V04) 林野庁事業

保護柵内外でのモニタリングは5年間隔での実施に変更しており、2024年度は実施しない。

2. 広域調査=半島全体における植生の状況とエゾシカの影響の把握

2-1.植生影響調査(森林植生)(V08) 林野庁事業(一部環境省)

知床半島全域をユニット区分して、森林植生に全70調査区を設定している。5年間隔のモニタリングを基本としているが、優先度が低いユニットについては見直しを進めている。100m×4mの固定帯状区において、立木・稚



樹・下枝・林床植生について生育種とシカの食痕を調査している。

今年度は、林野庁で囲い罠を設置してきた<u>宇登呂地区・春苅古丹地区</u>の6区において実施する。2014年に囲い区を設置したS07-3cについては稚樹・下枝・ササの量とも大幅な回復が見られているが、他の調査区についてはほとんど回復が見られていないため、その後の推移について確認する。

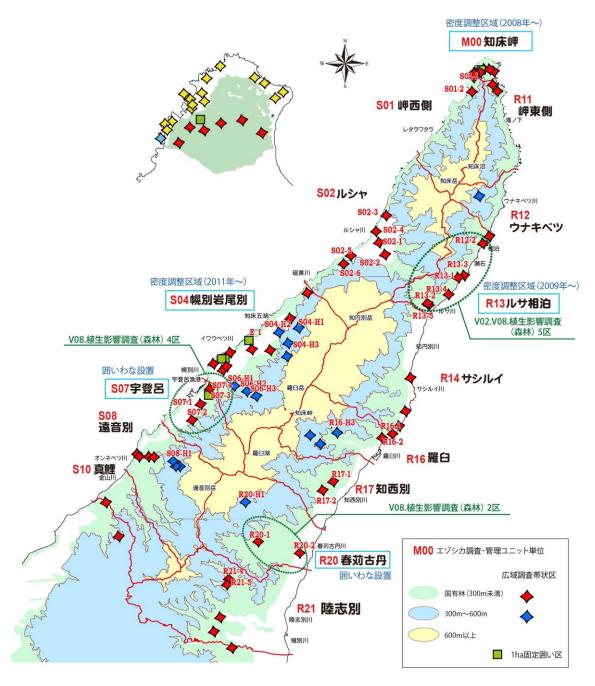
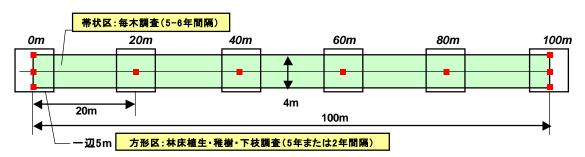


図-1. 知床半島全域における森林植生モニタリング調査区の位置と今年度の調査区



広域森林調査の基本構成(林床植生・下枝・稚樹については6方形区内で実施)

表-1.広域森林調査区のスケジュール一覧

調査区分の記号 ■:1ha全調査、●:帯状区全調査、▲:帯状区林床・下枝・稚樹のみ、◆:下枝など簡易、▼:固定が不十分、下枝など未実施 ※赤字は固定最終年 \は予定年だが未実施 ○◎△:今後の調査予定、◎:調査区のモニタリング適性を検証する調査予定

■固	■固定帯状区(採食圧調査、100m×4m)														9	第1	朝長其	月モニク	タリング	j			第2	朝長	期モニ	ニタリン	グ〜	1
	AC.15 D	(E) (E)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			,		第	1期仍	R護管	理計	画	第	2期傷	R護管	理計	画	第	3期保	護管	理計	画	第	4期仍	マ 護管	理計	画	i
番号	エリアNo	エリア	調査区名	区分	設置年	実施 者	面積	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	方針
1	M00	知床岬	M00-1	低	2011	林	400					•		•		•		•		•		•		•			Δ	5年に2回程度
2	M00	知床岬	M00-2	低	2011	林	400					•		A		A		•		A		A		•			Δ	5年に2回程度
3	M00	知床岬	M00-3	低	2011	林	400					•		A		A		•		A		A		•		·	Δ	5年に2回程度
4	M00	知床岬	M00-4	低	2011	林	400					•		A		A		•		A		A		•			Δ	5年に2回程度
5	M00	知床岬	M00-5	低	2008	林	400		▼				•	A		A		•		A		A		•			Δ	5年に2回程度
6	M00	知床岬	M00-6	低	2008	林	400		▼				•	A		A		•		A		A		•			Δ	5年に2回程度
7	R11	岬東側	R11-1	低	2009	林	400			▼					•									•		Г		モニタリング適性を検討
8	R11	岬東側	R11-2	低	2009	林	400		İ	▼					•							İ		•		·		モニタリング適性を検討
9	R12	ウナキベツ	R12-1	低	2011	林	400					•					•					•					0	5年に1回程度
10	R12	知床岳(羅臼)	R12-H1	高	2008	環	400		•					•							•					0		高山調査に附随して実施
11	R13	ルサ相泊	R12-2	低	2011	林	400					•		A		A			•		A		•		0			5年に2回程度
12	R13	ルサ相泊	R13-1	低	2011	林	400		ļ			•		A		A			•		A		A		0			5年に2回程度
13	R13	ルサ相泊	R13-2	低	2011	林	400					•		A		A			•		A		A		0			5年に2回程度
14	R13	ルサ相泊	R13-3	低	2011	林	400		ļ			•		A		A			•		A		A		0			5年に2回程度
15	R13	ルサ相泊	R13-4	低	2006	林	400	_					•	A		A			•		A		A		0			5年に2回程度
16	R13	ルサ相泊	R13-5	低	2006	林	400	•	İ				•										•					モニタリング適性を検討
17	R14	サシルイ川	R14-1	低	2011	林	400					•					•					•					0	5年に1回程度
18	R14	サシルイ川	R14-2	低	2011	林	400					•					•					•					0	5年に1回程度
19	R14	サシルイ川	R14-3	低	2011	林	400		ļ			•			ļ		•					•					0	5年に1回程度
20	R16	羅臼	R16-1	低	2006	林	400	▼					•										•			Г		モニタリング適性を検討
21	R16	羅臼	R16-2	低	2006	林	400	•	İ				•		İ							İ	•					モニタリング適性を検討
22	R16	羅臼	R16-H1	高	2011	林	400		ļ			•			ļ							•				·		予備調査区へ変更予定
23	R16	羅臼	R16-H2	高	2011	林	400					•										•						予備調査区へ変更予定
24	R16	羅臼	R16-H3	高	2007	環	400	•					•				,		•					•		·		高山調査に附随して実施
25	R17	知西別川	R17-1	低	2011	林	400					•					•						•			Г		モニタリング適性を検討
26	R17	知西別川	R17-2	低	2011	林	400					•					•						•					モニタリング適性を検討
27	R20	春苅古丹	R20-1	低	2006	林	400	▼					•		A		A		•		A		A		0			5年に1回への変更を検討
28	R20	春苅古丹	R20-2	低	2006	林	400	▼	İ				•		A		A		•		A		A		0			5年に1回への変更を検討
29	R20	連倉別括(羅臼)	R20-H1	高	2011	環	200		İ			•						•					•					高山調査に附随して実施
30	R21	陸志別	R21-1	低	2011	林	400					•										•					0	5年に1回程度
31	R21	陸志別	R21-2	低	2011	林	400		İ			•			İ							•				l	0	5年に1回程度
32	R21	陸志別	R21-3	低	2011	林	400		İ			•			İ							•				ļ	0	5年に1回程度
33	R21	陸志別	R21-4	低	2006	林	400	▼	İ				•		İ		T					İ	•			·		モニタリング適性を検討
34	R21	陸志別	R21-5	低	2006	林	400	▼	İ				•		İ		İ		·····			İ	•			ļ	l	モニタリング適性を検討

- ※調査区名の■青色塗りは、標高300m以上に設置された調査区(高標高地)。
- ※実施者の 水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。
- ※■橙色塗りは囲い区内でエゾシカ排除下での調査、■黄色塗りは個体数調整下での調査。

■固	定帯状								ŝ	第1	明長其	月モニタ	タリング	ブ			第2	期長	期モニ	タリン	グ〜	1						
								第	1期仍	R護管	理計	画	第	2期仍	R護管	理計	画	第	3期係	R護管	理計	画	第	4期係	展護管	理計	画	
番号	エリアNo	エリア	調査区名	区分	設置年	実施 者	面積	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	方針
35	S01	岬西側	S01-1	低	2008	林	400		▼					•					•					•				モニタリング適性を検討
36	S01	岬西側	S01-2	低	2008	林	400		▼					•					•					•				モニタリング適性を検討
37	S02	ルシャ	S02-1	低	2011	林	400					•					•		•		•					0		5年に1回程度
38	S02	ルシャ	S02-2	低	2011	林	400					•					•		•		•					0		5年に1回程度
39	S02	ルシャ	S02-3	低	2008	林	400		▼					•					•		•					0		5年に1回程度
40	S02	ルシャ	S02-4	低	2008	林	400		▼					•					•		A					0		5年に1回程度
41	S02	ルシャ	S02-5	低	2008	林	400		▼					•					•		•					0		5年に1回程度
42	S02	ルシャ	S02-6	低	2008	林	400		▼					•					•		•					0		5年に1回程度
43	S04	五湖	S04-1	低	2011	林	400					•					•					•					0	5年に1回程度
44	S04	五湖	S04-2	低	2011	林	400					•					•					•					0	5年に1回程度
45	S04	連山中腹	S04-H1	高	2006	林	400	▼					•										•					モニタリング適性を検討
46	S04	連山中腹	S04-H2	高	2003	林	400						•										•					モニタリング適性を検討
47	S04	連山中腹	S04-H3	高	2006	林	200	▼					•										•					モニタリング適性を検討
48	S04	連山中腹	S04-H4	高	2007	環	400	•					•						•					•				高山調査に附随して実施
49	S04	幌別岩尾別	S06-1	低	2011	林	400					•		A		•		•		•		•		•			Δ	5年に2回程度
50	S04	幌別岩尾別	S06-2	低	2011	林	400					•		A		A		•		A		•		•			Δ	5年に2回程度
51	S04	幌別岩尾別	S06-3	低	2011	林	400					•		A		A		•		A		•		•			Δ	5年に2回程度
52	S04	幌別岩尾別	S06-4	低	2012	林	400						A	A		A		A				•		A			Δ	5年に2回程度
53	S04	幌別岩尾別	S06-5	低	2012	林	400						A	A		A		A				•		A			Δ	5年に2回程度
54	S04	幌別岩尾別	S06-6	低	2012	林	400						A	A		A		A				•		A			Δ	5年に2回程度
55	S04	横断道	S06-H1	高	2011	林	400					•					•						•					モニタリング適性を検討
56	S04	横断道	S06-H2	高	2011	林	400					•					•						•					モニタリング適性を検討
57	S04	横断道	S06-H3	高	2006	林	400	▼					•										•					モニタリング適性を検討
58	S07	宇登呂	S07-1	低	2011	林	400					•			•		•		•		•		•		Δ			5年に2回程度
59	S07	宇登呂	S07-2	低	2011	林	400					•			•		•		•		A		•		Δ			5年に2回程度
60	S07c	宇登呂	S07-3c	低	2014	林	400								•		A		A		A		•		Δ			5年に2回程度
61	S07	宇登呂	S07-4	低	2014	林	400								•		A		•		A		•		Δ			5年に2回程度
62	S08	遠音別	S08-1	低	2006	林	400	•					•								•					0		5年に1回程度
63	S08	遠音別	S08-2	低	2006	林	400	•					•								•					0		5年に1回程度
64	S08	遠音別	508-3	低	2006	林	400	▼					•								•					0		5年に1回程度
65	S08	遠音別	508-4	低	2006	林	400	•					•								•]				0		5年に1回程度
66	S08	遠音別岳	S08-H1	高	2011	林	400					•					•			I			•					モニタリング適性を検討
67	S08	遠音別岳	S08-H2	高	2011	環	400					•					•											モニタリング適性を検討
68	S08	遠音別岳	S08-H3	高	2011	環	400					•					•											モニタリング適性を検討
69	S10	真鯉	S10-1	低	2011	林	400					•					•					•					0	5年に1回程度
70	S10	真鯉	S10-2	低	2011	林	400				ļ	•					•			1		•					0	5年に1回程度

※調査区名の■青色塗りは、標高300m以上に設置された調査区(高標高地)。

※■橙色塗りは囲い区内でエゾシカ排除下での調査、■黄色塗りは個体数調整下での調査。

[※]実施者の 水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。